

年表の続きは博物館本館の展示でチェック！

ベリ―が徳川幕府に
ホルル小銃40挺を送る



片井京介が雷銃を用いる
傍装雷火銃を發明

(安永年間)

雷管を用いた管打式銃が日本に伝来

(弘化年間)

雷粉（雷水を用いた）発火方式の研究が始まる

高島秋帆が洋式銃を本格的に輸入・運用開始

各地で地方色や砲術流派ごとに特徴ある火縄銃を製造



鎖国政策により銃器開発停滞

異国船打込令（貫通）が国産初の空気銃である気砲を完成（文政2年）



日本に鉄砲伝来



天文年間	江戸初期～中期	文政年間	天保年間	弘化年間	嘉永年間	安政年間
1820年 ナポレオン死去	1825年 異国船打込令	1830年 フランス7月革命	1837年 大塩平八郎の乱	1841～1843年 天保の改革	1853年 黒船来航	1854年 日米和親条約締結（開国）
		1836年 アラモの戦い	1839年～1842年 アヘン戦争	1846年～1848年 アメリカ・メキシコ戦争	1853年～1856年 クリミア戦争	1857年～1859年 インド大反乱（セポイの乱）

イギリスでミニエー弾を改良した
エンフィールド弾開発

(1850年)

フランスでミニエー弾開発

(1846年)

針打式の紙製薬莖を用いる
後装式小銃
登場

(1841年)

雷管を用いた管打式銃の研究・開発が各国で活発化

(1820～1830年代)

銃用雷管発明

(1809年)

フリント・ロック
(火打石式)発明

(17世紀初頭)

特別展

戦国武将
ゆかりの
刀剣

豊臣秀吉と徳川家康

令和7年
1月11日(土)
～3月16日(日)

北館4階特別展示室

[開館時間] 10時～17時(最終入館16時30分)

[休館日] 月曜日(月曜祝日の場合、翌日火曜日)

豊臣秀吉と徳川家康は、どちらも有名な戦国武将です。
本展では、当館の収蔵品のなかから秀吉・家康それぞれに
ゆかりある刀剣を中心に展示いたします。
刀剣の伝来や武将のエピソードとともにお楽しみください。

[重要文化財]
太刀 銘 備州長船住景光 正和五年十月日

[重要文化財]
短刀 銘 備州長船住義正 平十一年五月日

名古屋刀剣博物館 名古屋刀剣ワールド

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3丁目35番43号
TEL 052-262-6000 / FAX 052-262-6006

開館時間: 10～17時(最終入館16時30分)
休館日: 月曜日(月曜祝日の場合は翌日火曜日を休館)

入館料:
(一般) 1,200円
(シニア) 1,000円 ※65歳以上
(大学生・高校生) 500円
(中学生・小学生) 300円 ※6歳以下は無料



メーパク